

「当たり前」にありがとう

埼玉県立芸術総合高等学校

三年 和田 明里咲

私たちは、誰かに助けられている。今はまだ税金を収める立場ではない私には、その大切さを当たり前だと思っていた。自分の身の回りで、災害や急病など、これといった大きな出来事が起こったことがなかった。今まで何の変哲もない日々を過ごしてきたからか、私は税金の大切さを学ぼうとしなかった。そんな私が税金に関心を持ったのは、この作文がきっかけである。作文を書くために、税金について色々調べてみた。すると、公立の小・中学校に通えたり、救急車を無料で呼べたり、警察や消防、自衛隊が機能しているのは、税金のおかげだという事を知った。何の変哲もないことは、当たり前ではなかった。正直、今までの私は税金に対してあまりいい印象を持っていなかった。税金は「ただ取られるお金」だと思ってしまっていた。沢山稼いでも、給料の半分くらいは税金で取られるという話を聞いたことがあり、なぜそこまで税金を払わなくちゃいけないのだろうと疑問に思っていた。だが、今回税金について調べてみたら税金に対する考えが変化した。目に映るものが全てではない。税金に対してよくないイメージをつける発言を耳にしたことがあるが、私たちの暮らしを影で支えているのは、社会である。税金は、ただお金を搾取されるのではなく、誰かを救い、支えるもの

であることを理解した。いざ自分や周りの人に何かあった時、社会全体が支えてくれる仕組みがあるのは、税金のおかげであり、自分たちの社会をどうつくるか考える「責任」でもあると考えた。それと同時に、今まで支えられながら生きていくことに気づかなかったことをひどく後悔した。まだ税金を収めない立場でありながらも、影で支えられている私たちだからこそ、向き合うべきであると考えた。出会ったことのない沢山の方々のおかげで、私たちは日々、安定した生活を送ることが出来ている。この事実と感謝を忘れずにこれからも生きていきたい。そしていくつか歳を重ねて、やがて私も誰かを支える一員になったら、真面目に税金を収め、社会に貢献できる大人になりたい。